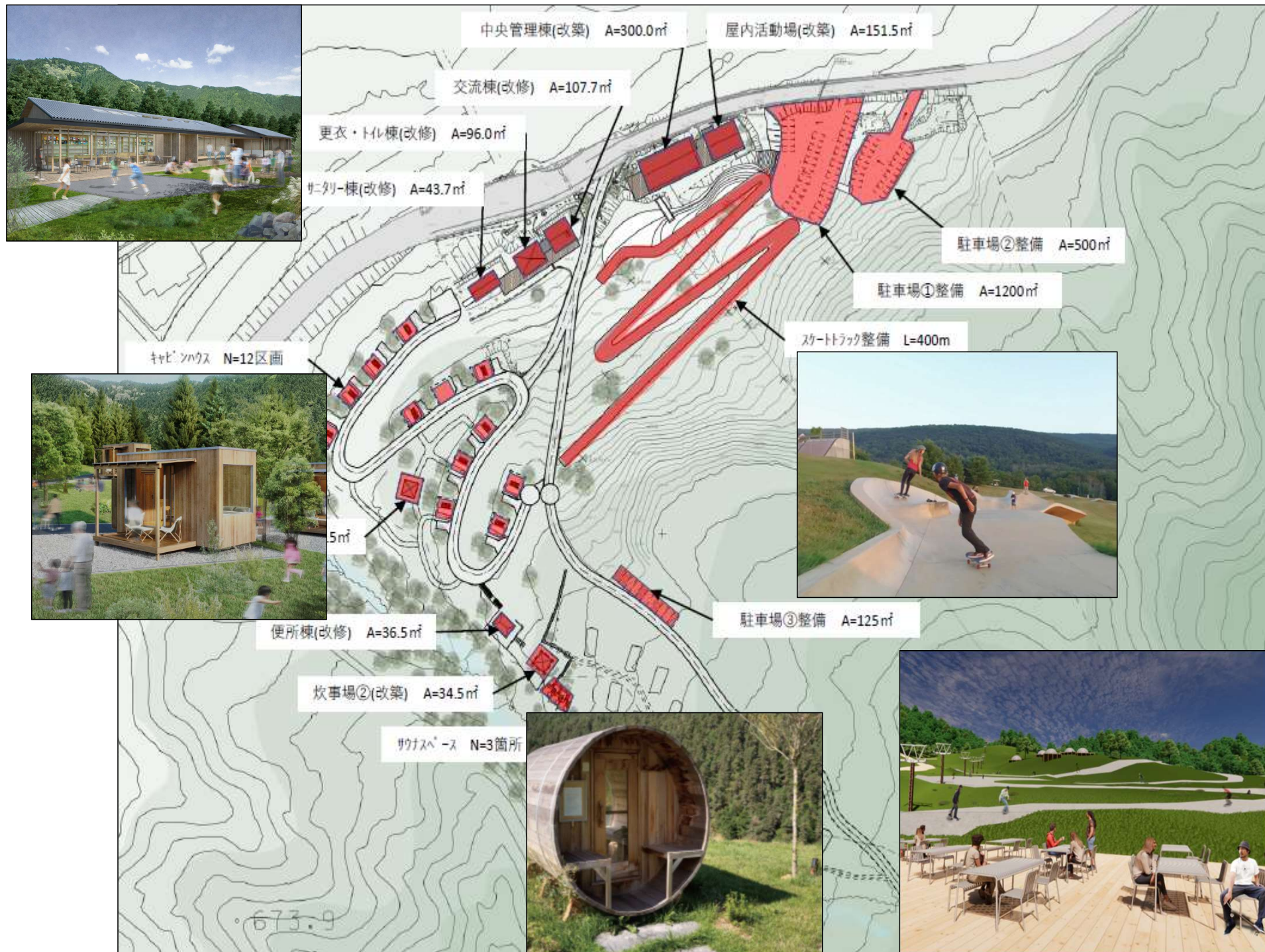


大茅スキー場エリア再整備事業の概要



再整備事業の内容

■スケートトラック（全長 約400m）

・西栗倉の自然を活かして、旧スキー場のゲレンデの斜面に全長約400mのスケートボードトラックが整備されます。海外では注目されている施設ですが、日本では初の本格的な屋外スケートトラックです。舗装には、村の木材チップを使った特殊なアスファルトが使われ、西栗倉らしい森との調和が大切にするスポーツ施設が整備されます。

・村民は無料または割引価格で利用できる予定で、地元の子どもたちがのびのびとスポーツを楽しめる場所になります。

・小中学生向けのスケートボード教室も計画されており、学校教育の一環として取り入れることで、スポーツを通じた新たな学びの機会にもなります。安全対策にも配慮され、子どもから大人まで安心して利用できる施設です。



■サウナ施設（3区画）

・整備エリア内の谷川のせせらぎを生かし、自然に溶け込むようなサウナ施設がつくられます。スケートや登山のあとに、自然の中でリラックスできる場所として、キャンプ場の魅力がさらに広がります。

・平日は地元の方向けに利用しやすい料金設定が検討されており、住民の方にとっても、日常の中で気軽に楽しめる癒やしの場となることが期待されます。

・村の木から作られたアロマオイルを使った「ロウリュ」（サウナストーンにアロマ水をかける演出）も予定されており、地域資源を活かした取り組みが進められています。



■交流スペース・ラウンジ（既存建物の改修）

・旧キャンプ場の建物をリニューアルし、地域の人たちや外から訪れる人たちが出会い、交流できるイベントスペースが整備されます。インターネット環境も整っており、保護者の待ち時間やちょっとしたテレワークにも使えるよう工夫されています。

・村民が自由に使える休憩ラウンジには地元の木を使った家具が置かれ、心地よい空間が提供されます。軽食や飲み物を提供するカフェでは、地元の食材を使い、地域の味を楽しめる場として、観光客だけでなく地元の人にも親しまれることが想定されています。

・会議室やキッチンスペースも併設され、住民の集まりや、地域のお店が出店する「ポップアップショップ」としての利用も可能。地域の小さなビジネスのスタートにもつながる場になります。



■キャビン棟（12棟）

・これまでのキャンプサイトの敷地を活用し、新たに12棟のキャビン（小さな宿泊施設）が建てられます。テントが苦手な方でも、自然の中で快適に過ごせる宿泊スタイルが選べるようになります。

・安価な価格設定で学生の方やビジネス利用などの需要に応え、これまでのキャンプ場とあわせて、多様な宿泊のニーズに応えられる施設として、地域に長く滞在してもらえる環境が整えられます。

・村外からの宿泊客の受け入れが増えることで、地元のお店や仕事にも良い影響が広がっていくと期待されています。



再整備事業の予算について

・総事業費：約9.8億円（うち、村実質負担額0.7億円）

■国補助金（4.9億円）

内閣府の「新しい地方経済・生活環境創生交付金」を活用します。補助率は1/2です。

リフト撤去費を除く一連の工事を対象とします。

■寄附等（2.6億円）

民間事業者からの「企業版ふるさと納税」を見込んでいます。

■過疎債（2.3億円）

国からお金を借り、約10年をかけて返済していきますが、元利償還分の約7割が戻ってきます。このため、実質負担額は0.7億円になります。

総事業費 9.8億円		
国庫補助金：4.9億円 49.75%	寄附等： 2.6億円 26.15%	過疎債： 2.3億円 24.10%
		うち元利償還 1.6億円(7割)

再整備事業によって期待される効果

■地域経済の活性化と雇用の創出

このプロジェクトは、西栗倉村の経済を元気にし、新しい仕事を生み出すことが期待されています。開業から最初の年には、観光で訪れる人が2万人ほど増えると見込まれており、村に泊まる人の数も今の約4,600人から倍になると予想されています。これにより、宿泊施設の収入だけで年間7,000万円、飲食店やお土産屋さんなどでの買い物も約4,800万円増えるとされています。

さらに、開業から3年後には、地域全体への経済的な効果が年間2億円以上に広がる見込みです。施設の運営やそれに関わるサービス業では、新たに約30人の雇用が生まれるとされ、そのうち20人は施設で直接働く人たちです。

地元で働く場所が増えることで、若い人が村に残ったり、移り住んでくるきっかけにもなるかもしれません。

■人口の維持・移住の促進と地域ブランドの向上

この事業は、村の未来を支える若い世代が働ける場所をつくることで、人口減少という大きな課題に立ち向かう取り組みでもあります。特に、スケートトラックやアウトドア施設などの魅力を活かして、村の特産品やライフスタイルを全国に発信し、西栗倉の名前と価値を知ってもらうチャンスとなっています。

こうした取り組みが積み重なれば、村に「住んでみたい」「関わってみたい」と思う人が少しずつ増え、移住や関係人口の拡大にもつながります。地域の魅力がより多くの人に伝わることで、村全体のブランド力も高まり、将来への追い風になると期待されます。

■子育て・教育環境の充実

スケートボードトラックやキャンプ場など、自然を楽しめる施設が整備されることで、子どもたちにとって貴重な「遊びと学びの場」が生まれます。自然の中でのびのびと遊ぶことは、創造力や自立心を育むだけでなく、挑戦する力やがんばる気持ちを育てる大切な経験にもなります。また、こうした環境があることで、子育て世代にとっても暮らしやすさが実感できる地域になります。

将来、子どもたちが「この村で育ってよかった」と感じ、地域に愛着を持ってくれること。そしていつか大人になっても、この場所で暮らし続けたいと思えること。そのきっかけづくりとして、今回の整備はとても意味のあるものです。

再整備後の運営について

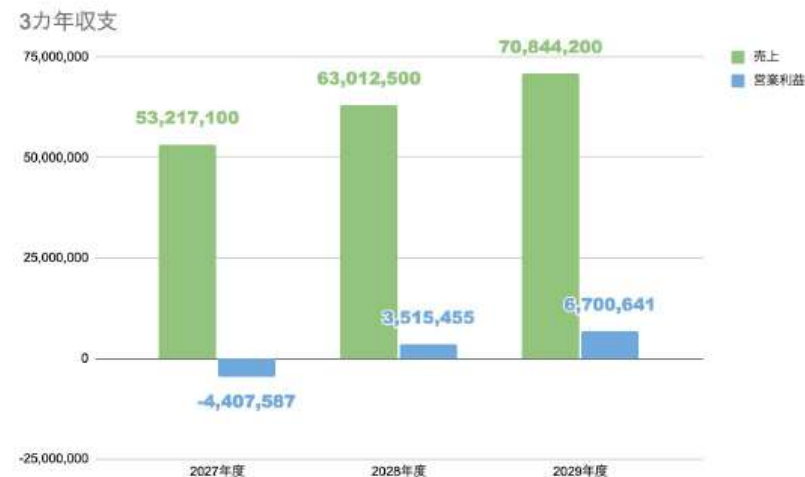
施設は自治体が整備し、民間事業者が運営することを前提として、民間事業者からの企画提案を受け本事業の実施を予定しています。

- ・民間事業者による事業計画では、開業後2ヶ年目で営業黒字化、3ヶ年目以降は営業利益率10%前後での安定的な収益確保を計画し、施設の事業経費及び維持管理等に係る村からの支出は原則予定していません。
- ・継続的に年間2万人超の来訪を見込み、将来的には地域での雇用創出も見据えています。

整備・運営をになう事業者について

株式会社カヤック（神奈川県鎌倉市）は、1998年に設立され、「つくる人を増やす」を理念に、ゲーム開発、広告制作、メタバース構築など多岐にわたる事業を展開しています。

地方創生分野では、「ちいき資本主義」を掲げ、地域資源を活かした持続可能なまちづくりを「じぶんごと」として地域と共同し推進。具体的な取り組みとして、移住支援サービス「SMOUT」や地域通貨「まちのコイン」などを展開し、地域課題の解決と魅力発信に貢献しています。



この事業には、村の予算としてはかなり大きな支出がかかります。しかし、その多くは国の交付金や、企業からの「企業版ふるさと納税」を活用してまかなわれるため、村が実際に負担する額は全体の10分の1に満たない見込みです。

また、かけるお金に見合うだけの“地域へのリターン”が見込まれています。たとえば、観光客の増加や雇用の創出によって地域経済が元気になるだけでなく、子どもたちが安心して遊び、学び、育っていける教育環境づくりや、若い世代が村で働き続けられる仕組みづくりにもつながっていきます。それはすなわち、高齢化や人口減少といった地域の課題に正面から向き合い、未来につながる投資といえるでしょう。

さらに、この事業の実施にあたっては、水道や道路といった住民生活に直結するインフラ事業や、日常の福祉・教育予算に支障が出ないよう、しっかりと計画が立てられました。限られた財源の中でも、できるだけ村の負担を軽くしながら、将来にわたって効果が広がるよう工夫された取り組みです。

